コンサルテーションの実際　Ⅰ

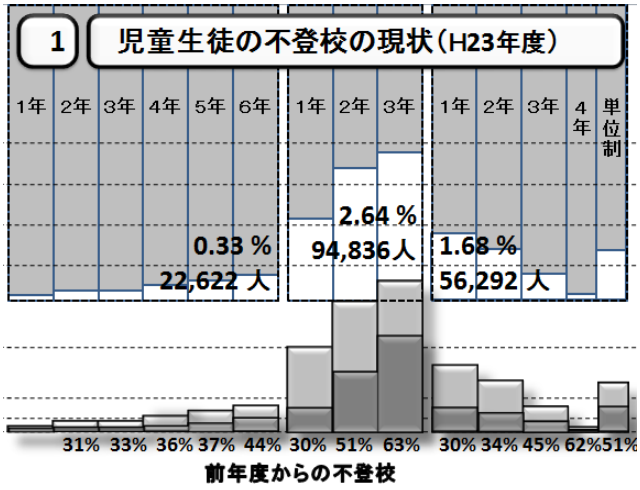
―「生徒支援コーディネーター研修」を通して、考え、実践してきたことー

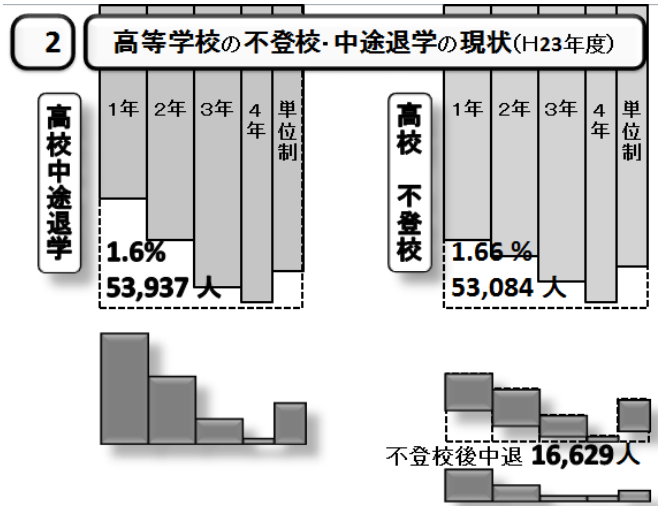
高知県心の教育センター　　今西一仁

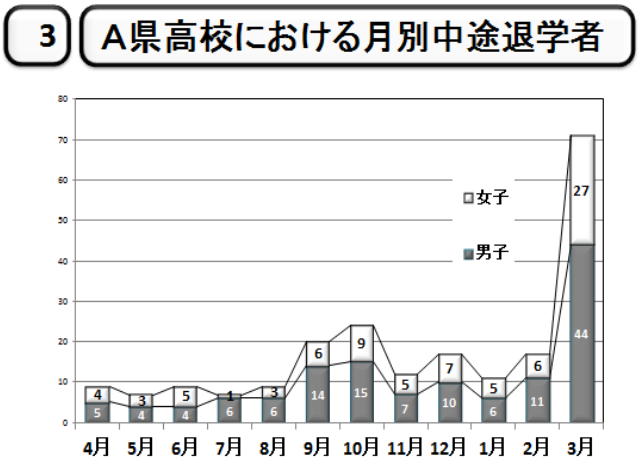
はじめに
１．生徒支援の現状と課題
２．「生徒支援コーディネーター研修」とは
３．支援体制づくりの３つの切り口
４．児童生徒支援を鳥瞰する視点

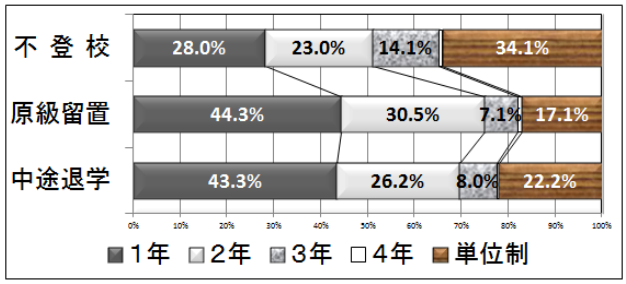
はじめに

１．生徒支援の現状と課題



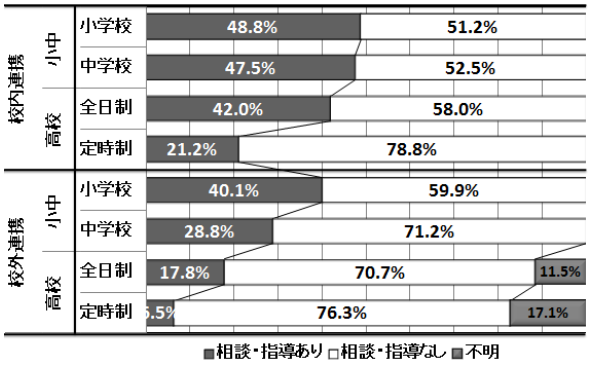






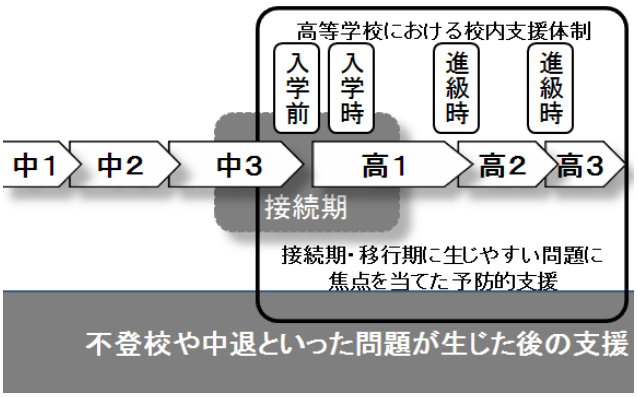
4 小・中・高等学校の不登校生徒に対する「専門的支援（相談）」・「専門的指導」の状況

		小学校	中学校	全日制	定時制
校内	養護教諭・SC等による相談・指導を受けた	48.8%	47.5%	42.0%	21.2%
	養護教諭による専門的な指導	23.8%	19.0%	23.7%	11.2%
	SC等による専門的な相談	34.9%	37.5%	26.7%	11.3%
	養護教諭・SC等による相談・指導なし	51.2%	52.5%	58.0%	78.8%
校外	校外の関係機関等で相談・指導を受けた	40.1%	28.8%	17.8%	6.5%
	教育支援センター（適応指導教室）	11.1%	11.5%	0.6%	0.4%
	教育委員会・教育センター等	13.3%	5.1%	0.7%	0.2%
	児童相談所・福祉事務所	8.2%	4.5%	1.0%	0.9%
	保健所・精神保健福祉センター	1.0%	0.4%	0.5%	0.2%
	病院診療所	11.6%	7.6%	14.3%	4.4%
	民間団体・民間施設	2.3%	1.4%	0.9%	0.3%
	その他の機関等	2.0%	1.4%	0.7%	0.5%
	校外の関係機関等での相談・指導なし	59.9%	71.2%	70.7%	76.3%
	不明			11.5%	17.1%



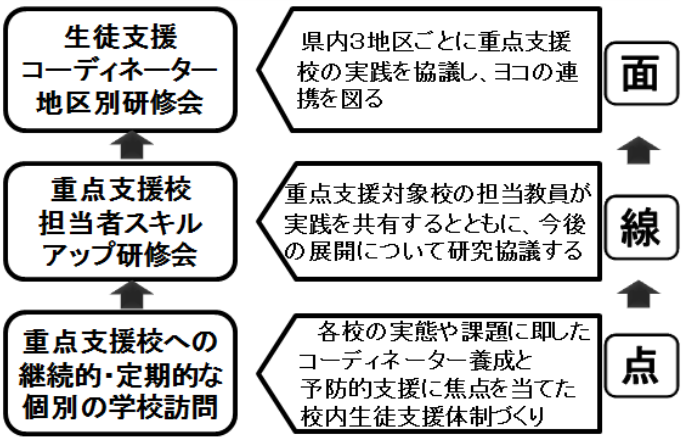
5 高等学校における生徒支援の課題

1. 入学時、年度当初からの適応・発達への支援と予防的支援をどうするか
   ① 入学前からの中高連携の工夫
   ② 入学時、年度当初の支援の工夫
2. 支援が必要な生徒の早期発見・早期支援を目指す校内生徒支援体制づくり
   ① 校内における支援の枠組み
   ② 校内連携から校外連携へ
3. コーディネーター担当教員の養成



2. 生徒支援コーディネーター研修とは

6 生徒支援コーディネーター研修の内容



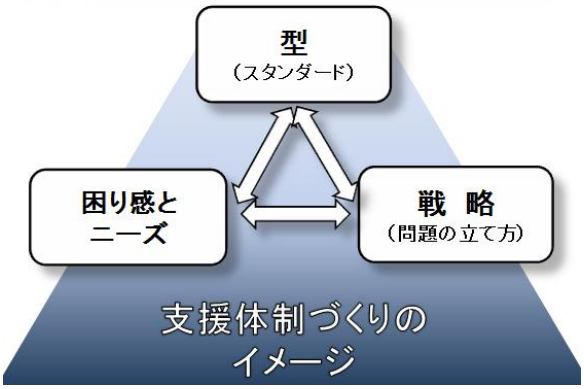
7 支援体制づくりに向けた取組の柱

1. Q-U・アセス等、学級集団対象のアセスメントツールを活用した支援サイクルづくり
   （教職員相互のコミュニケーションツール）
2. 定例支援委員会の組織づくりと運営
   （問題対処型支援から予防的支援へ）
3. 生徒支援コーディネーター担当者研修
   （各学校の実態に応じた研修支援）

用語法の整理

３．支援体制づくりの３つの切り口

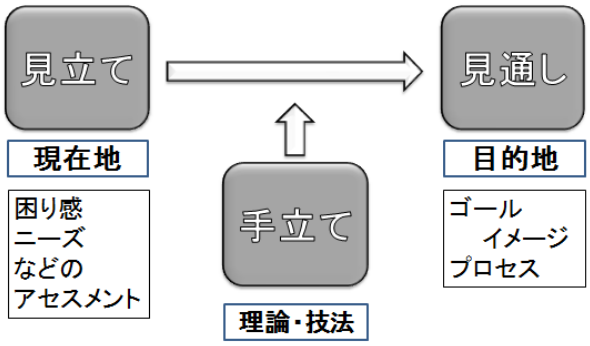
8 支援体制づくりの3つの切り口



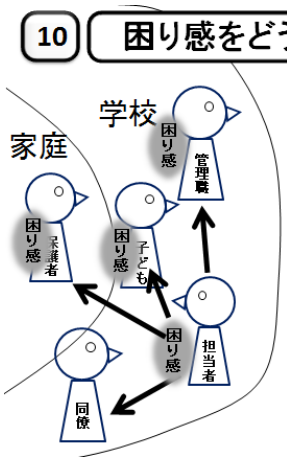
１．困り感とニーズ

ワーク1

9 見立て・見通し・手立て



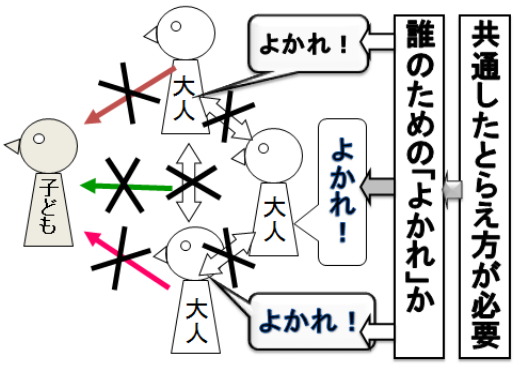
10 困り感をどう見るか



いつ、どこで、だれが、
何に、どのように、
困っているのか

だれのどのような困り感に焦点を当てれば子どもにとって効果的な支援ができるか。

11 「よかれの呪縛」を相対化する視点



12 困り感へのアプローチのポイント

- 困り感が支援の入口になる
- 困り感をつかむためにどうすればいいか
- 困り感を（支援）ニーズに変えていくには、どう考えて、どう動けばいいか
- 困り感がない（ように見える）人は、「　　」と考えてみる
- 常に、目の前の人がクライエント
- 「私は（本当は）何に困っているのか」
  ― まずは、自分の困り感をチェックする

２．戦略（問題の立て方）

13 問題の立て方のポイント

- 現状をどのように見るか（見ないか）
- 問題はどこにあると考えるか（考えないか）
- どのような状態になればいいと考えるか（考えないか）
- そのためには、いつ、どこで、だれが、だれに、
  何を伝えるか（伝えないか）
  何をするか（しないか）
  どのように動くか（動かないか）

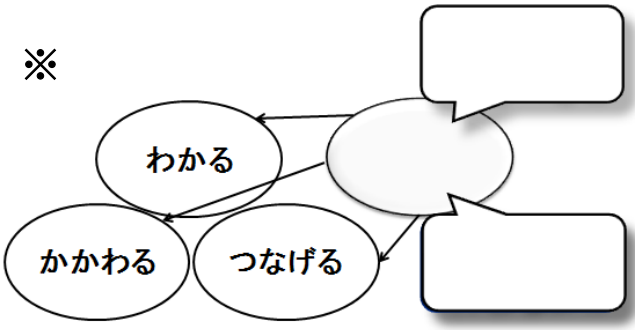
現状（現在地）についての見立て

14 児童生徒支援 の 5W1H

い つ	時	何に・を	どのように
ど こ で	場	対象	状態・程度
だ れ が	人		

な ぜ ？　根拠

※



15 何から始めるか

新しいことを始めるときは
（　　）を始めず、
（　　）から始める

３．型（スタンダード）

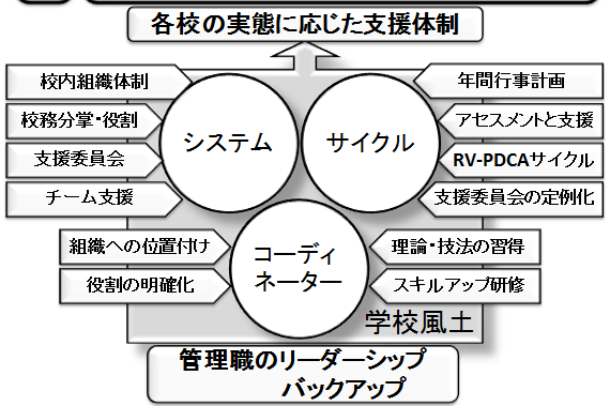
16 型をもつことの重要性

学ぶこと は「（　　）」こと

- 守　だれかの型を真似て、それを身につける
- 破　身につけた型に満足できず、型を壊す
- 離　これまでの型から離れて、自分独自の型をつくる

どのような型を対象とするか

17 校内支援体制づくりに向けた3つの視点



18 支援サイクルが機能している学校とは

1．１年間を通して、アセスメントから支援へとつながる、一貫した支援のサイクルが、教職員に意識されている。
2．支援のサイクルが、年度当初から学校の年間行事計画の中に、具体的な行事や取組として組み込まれている。
3．支援サイクルを遂行するシステムがあり、担当の教職員（生徒支援コーディネーター）がシステムに位置づけられている。

（１）アセスメントツール（Q-U、アセス等）を用いた支援サイクルづくり

19 Q-U活用の3つの視点

1．「見たて」のための道具

学級集団の理解と子ども理解を図る

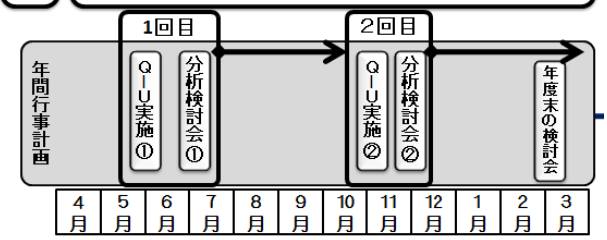
2．校内連携のための道具（「共通言語」）

校内で学級・個別支援に向けて話し合う

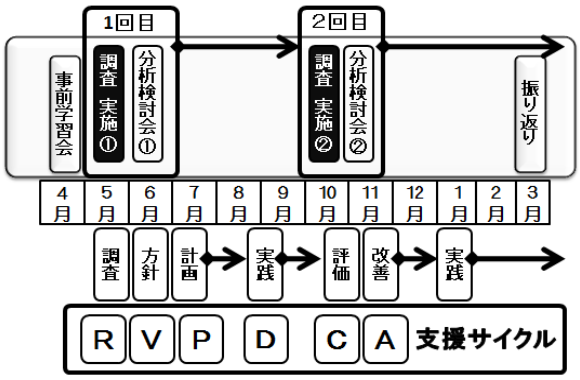
3．校内支援サイクルづくりのための道具

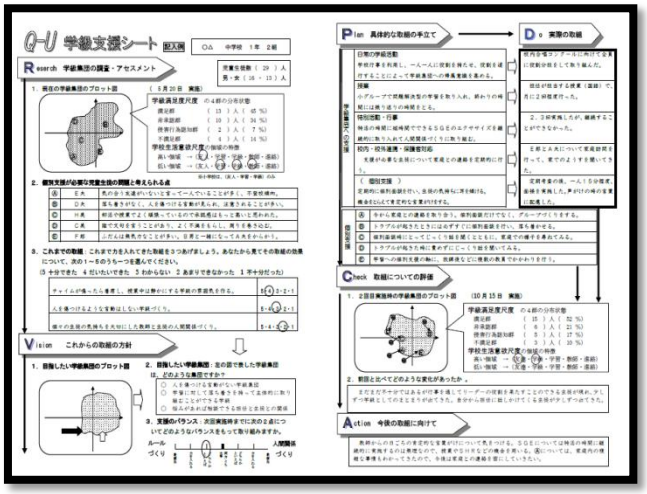
年間を通した支援サイクルを作る

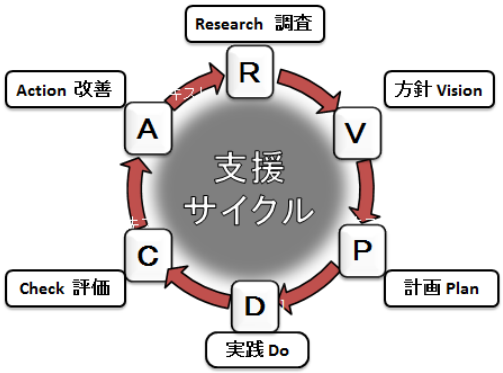
20 Q-Uを用いた支援サイクルづくり



① 年間行事計画を支援サイクルの視点から見直す
② アセスメントツールを用いて支援サイクルをつくる
（1回目と2回目、2回目と次年度をどうつなぐか）
③ 日程のとり方が支援の対象や方向性を決める
→前年度の1～3月の年間行事計画づくりが重要







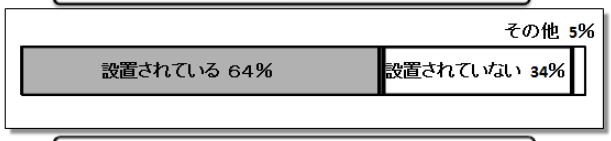
支援サイクルづくり から 支援体制づくりへ

（２）校内支援委員会（コーディネーション委員会）のシステムとサイクル

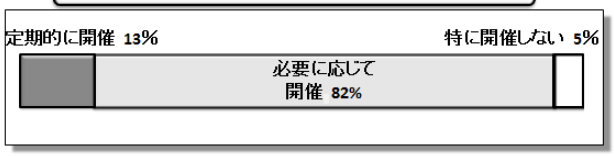
ワーク2

21 校内支援委員会の運営の状況

① 校内支援委員会等の組織の設置状況



② 校内支援委員会の開催のしかた



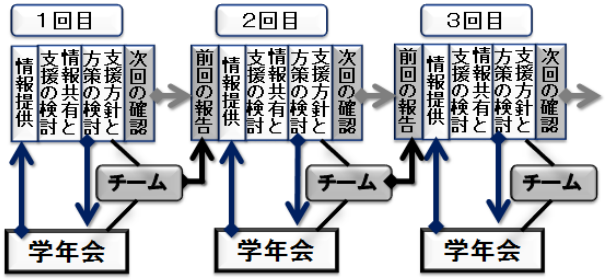
平成21年度 県内高等学校教育相談体制についての調査より

22 臨時支援委員会 と 定例支援委員会

	① 臨時支援委員会	② 定例支援委員会
	支援が必要な問題が生じたと判断されたときに開催	「月1回」のように定期的に開催
メリット	危機介入も含め問題への即時の支援ができる 討議の焦点をしぼりやすい	問題が深刻化する前に予防的な支援ができる 継続的な支援ができる
課題	開催の必要性の判断を行う者（分掌）の明確化 継続的支援に向けた工夫	生徒の情報収集と共有のシステムづくり 学年会の活性化

両者を使い分ける工夫

23 定例支援委員会の運営のねらい



① 定例化することによる学年会の活性化
② 継続的で安定したチーム支援
③ 支援委員会の定例化による支援サイクルづくり

（３）生徒支援コーディネーターの役割と働き

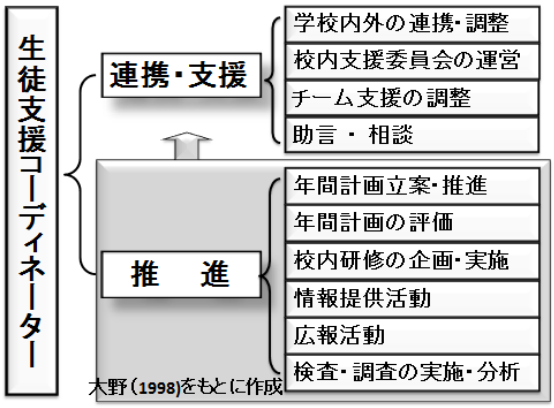
24 生徒支援コーディネーターとは

教育相談担当者・特別支援教育コーディネーター等、校内支援委員会において連携調整役を担当する教職員

校内全体の生徒支援を考えるとき、校内支援委員会の調整・運用を行う「コーディネーター」担当者の役割の整理が必要な時期に来ているのではないか？

ワーク3

25 生徒支援コーディネーターの役割



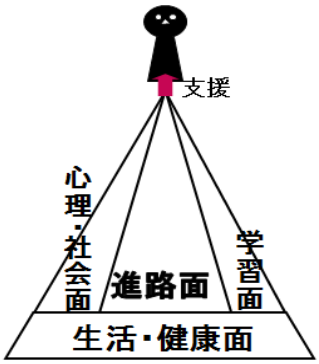
4．児童生徒支援を鳥瞰する視点

26 支援の「枠組み」を持つことの意義

① 自分（学校）が十分取り組めているところ、まだ不十分なところを整理して、今後の課題について検討する。
② 支援についての一定の枠組みを同僚と共有することで協働性を高める。
③ 自分（学校）の実践を次の年度へと継承し、発展させる。

支援マップ

石隈利紀（1999）



今西（2010）　大野（1998）をもとに作成

28 枠組み① 支援の4つの領域

生活・健康面	心理・社会面	学習面	進路面
健康管理、生理的欲求の充足、身体的な発達、家庭生活の安定など	自尊感情、自己受容、情緒的安定、ストレス対処法、対人関係スキル、学校適応など	学習への関心、学ぶことの意味、学習習慣、学習意欲、学習内容の理解、学習方略など	得意なことや趣味、役割意識、将来の夢や進路、進路情報収集・活用、意志決定など

29 枠組み② 支援の3つの次元

1次的支援	すべての児童生徒を対象として、個々の発達を促す促進的支援と、想定される課題への対応を促す予防的支援が中心がある。
2次的支援	日常的なアセスメントをもとに、援助ニーズを抱えた一部の児童生徒をできるだけ早期に発見して早期に対応する予防的支援を行う。
3次的支援	困難な問題を抱えた特定の児童生徒を対象として、校内・校外連携による支援チームをつくり、危機介入を含めた支援を行う。

	生活・健康面	心理・社会面	学習面	進路面
1次的支援				
2次的支援				
3次的支援				

今西（2010）

27 支援マップ

ワーク4　支援の領域と支援の次元についての見分け方　（わかることは　　こと）

（１）　次の①から⑤の支援の次元と領域はそれぞれどれに当たりますか。○で囲んでください。

① 不登校状態が１か月以上続くＴさんに週に１回家庭訪問を行う

次元（１次的支援、２次的支援、３次的支援）　領域〈健康面、心理・社会面、学習面、進路面〉

② 新入生を対象として４月に各学級で人間関係づくりを行う

次元（１次的支援、２次的支援、３次的支援）　領域〈健康面、心理・社会面、学習面、進路面〉

③ 子どもが地域の事業所を訪問したり職業体験学習を行ったりする

次元（１次的支援、２次的支援、３次的支援）　領域〈健康面、心理・社会面、学習面、進路面〉

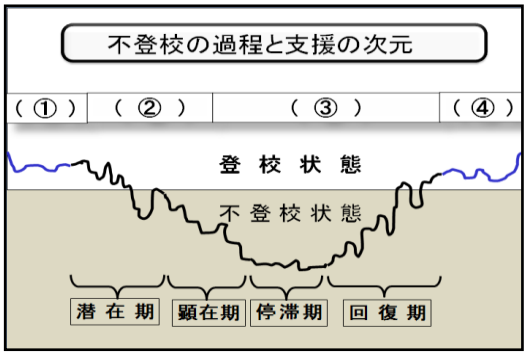
④ 欠席しがちな子どもがいないか学年会で情報を収集する

次元（１次的支援、２次的支援、３次的支援）　領域〈健康面、心理・社会面、学習面、進路面〉

⑤ 授業についていけなくなったＳくんに対して放課後補習を行う

次元（１次的支援、２次的支援、３次的支援）　領域〈健康面、心理・社会面、学習面、進路面〉

（２）下の図は不登校の過程を表したものです。（　　）の中の①から④の時期について、支援の次元はそれぞれどれに当たると思いますか。○で囲んでください。



①（１次的支援、２次的支援、３次的支援）

②（１次的支援、２次的支援、３次的支援）

③（１次的支援、２次的支援、３次的支援）

④（１次的支援、２次的支援、３次的支援）

ワーク5

あなたは、あなたは、所属校の児童生徒支援において、どのような人に対する、どのような支援が行われてきたと思いますか。付箋１枚つき１件、下の例のように、できるだけ具体的に書いてください。時間内に何枚書いてもけっこうです。

例

不登校状態になった児童生徒　　に対して、

学校に再登校できるように家庭訪問を行うこと

} 支援の対象

} 支援の内容

支援の現状の把握　　（見立て）

⑴　記入した付箋を支援マップのマス目に貼ってください。
⑵　貼り終わったら支援マップを見て、どのような特徴があるか、まずあなた自身が、①～③の支援マップの特徴をつかむポイントにしたがって検討し、あてはまると思われる次元・領域・対象に〇をつけてください。
⑶　気の付いたことがあれば、下のメモ欄に記入してください。
⑷　各グループで、一人３分以内で、自分の支援マップについて気の付いたことを発表してください。

【支援マップの特徴をつかむポイント】
①　どの次元・領域が生徒支援の中心になっていますか。
②　児童生徒支援の対象となっていないのはどの次元・領域ですか。
③　㈠どのような人が支援の対象になっていますか。
　　㈡どのような人が支援の対象となっていませんか。

①	領域		健康・生活面	心理社会面	学習面	進路面
	次元		１次的支援	２次的支援	３次的支援	
②	領域		健康・生活面	心理社会面	学習面	進路面
	次元		１次的支援	２次的支援	３次的支援	
③	対象	㈠	児童生徒　・　保護者　・　教員　・　他（　　）			
		㈡	児童生徒　・　保護者　・　教員　・　他（　　）			

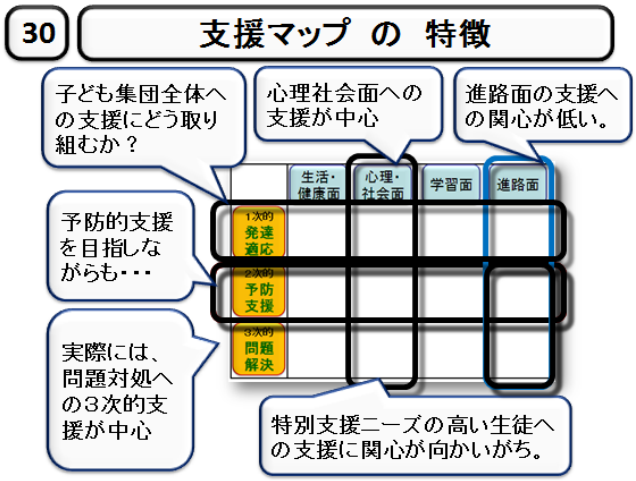
これからの支援に向けた課題　（見通し）

所属校において、今後の児童生徒支援を考えていく上で必要な支援は、どのような人に対するどのような支援だと思いますか。まずはあなた自身が、今後支援が必要だと思う領域と次元、対象について、下の表に〇をつけてください。

領域	健康・生活面	心理社会面	学習面	進路面
次元	１次的支援	２次的支援	３次的支援	
対象	児童生徒　・　保護者　・　教員　・　他（　　）			

これからの取組　　（手立て）

「これからの支援に向けた課題」として取り上げた領域・次元・対象への支援を行っていくためには、どのような取組が考えられますか。１件につき１枚の付箋に、できるだけ具体的に、実現可能な取組を書いてください。なお、記入した付箋は、支援マップのあてはまると思われるマス目の中に貼ってください。



参考資料　４領域・３次元の支援モデルを用いた支援体制の実践例※今西一仁(2008)

		支援の基本	社会面	健康面	心理面・進路面
			人権教育係	保　健　係	カウンセリング係
一次的支援	発達・適応への支援	日常的なかかわりと行事を通して生徒全員を対象として、能力を伸ばすことを目指す促進的な支援が中心であり、主に集団が対象となる。	教科、生活指導、部活動を通しての人権学習。互いの違いを認め会える学級経営。 人権教育学習（ＬＨ） 広報・啓発活動。	健康診断など予防活動 学校生活におけるケガや病気への対応 生徒保健委員会活動 生徒対象の保健講話 広報・啓発活動	広報・啓発活動 集会などでの講話 心理テストの実施 進路カウンセリングプログラム カウンセリング 心理教育授業
			１年生高校生活適応支援プログラム 性の予防教育授業（全国科学的エイズ予防教育プログラム） 教職員対象の生徒サポート研修会 「高校生活アンケート」の実施による生徒の意識傾向の分析		
二次的支援	予防的支援	援助ニーズを抱えた生徒をできるだけ早期発見する。一時的な問題を抱えた生徒が、自分で問題解決ができるように支援する.	校内生徒支援体制による予防的な対応と初期対応 カウンセリングなどの個別支援		
			保幼・小中・地域・関連団体との連携	健康相談 校内救急連絡体制	進路カウンセリングプログラム カウンセリング
三次的支援	問題解決への支援	困難な問題を恒常的に抱えた特定の生徒を対象として、「支援チーム」と「学校支援委員会」によって、個別支援方針・計画を作成して支援にあたる。	校内生徒支援体制によるチーム支援を中心とした危機介入		
			カウンセリング や 関係機関との連携	カウンセリング 校内救急連絡体制 関係機関との連携	カウンセリング や 関係機関との連携

【引用・参考文献】

石隈利紀(1999)「学校心理学　教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス」　誠信書房
大野精一(1998)「学校教育相談の実践的な体系について」　広島大学学校教育学部附属教育実践総合センター『いじめ防止教育実践研究』第２巻、1-41p
今西一仁(2008)「生徒サポート部で日常的な校内連携とチーム支援」月刊学校教育相談１月号 ほんの森
今西一仁(2010)「不登校・高校中退への予防的支援をめぐって ～学校と関係機関との連携を中心に～」内閣府講演録「公的機関において相談業務に当たる職員の資質向上を図るための研修」
http://www8.cao.go.jp/youth/suisin/shien_ref_kouenroku.html
今西一仁(2010)「学校心理学に関する研究の動向　学校における進路面の援助に関する研究を中心に」『教育心理学会年報』No.49
高知県心の教育センター（2009）ＲＶＰＤＣＡサイクルを用いた学級支援シート

岩手県総合教育センター　教育相談コーディネーター研修会　資料　２

コンサルテーションの実際　Ⅱ

―　チーム支援（作戦会議・コンサルテーション会議）をどう進めるか　―

高知県心の教育センター　　今西　一仁

はじめに
１．今、なぜ、チーム支援（作戦会議・コンサルテーション会議）か
２．チーム支援とは何か（何をもって「チーム支援」と呼ぶか）
３．チーム支援をどう進めるか
４．チーム支援を進めていくために、これから何が必要か

１．今、なぜ、チーム支援　なのか

ワーク1

1　チームでの支援を行うことの意義

① さまざまな役割や立場の援助者が集まることによって、多面的な情報収集による支援ニーズを把握し、多様な援助資源を発見できる

② 担任（支援担当者）の過重な負担の軽減と個々の教師の働きを生かした支援ができる

③ 複数の支援者がかかわることによって、継続的、安定的な支援ができる

④ 教師の支え合いと学び合いの場をつくる

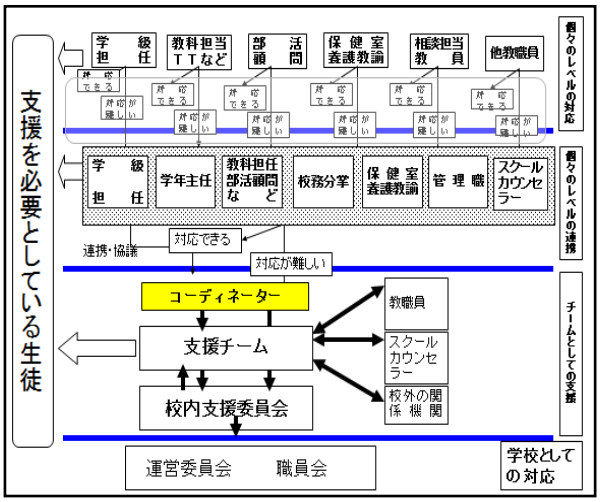
　　への支援 ⇨ 　　への支援

石隈（1999,2005）佐藤（2007）をもとに作成

2　チーム支援の位置づけ

ワーク2

校内支援体制づくりを 進めようとするとき、次の４つのレベルの支援のうち、どのレベルの支援が 重要なポイントになると思いますか 。下のａ～ｄの一つを〇で囲んでください。



個々のレベルの対応	⇨	個人でかかわる力
個々のレベルの連携	⇨	同僚と協働する力
チームとしての支援	⇨	組織で対応する力
学校としての対応	⇨	学校を変革する力

ａ．個々のレベルの対応
ｂ．個々のレベルの連携
ｃ．チームとしての支援
ｄ．学校としての対応

２．チーム支援とは何か

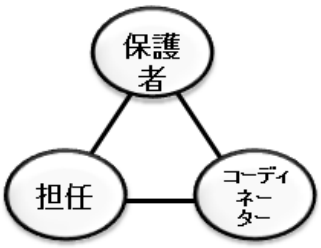
3 チーム支援とは何か（チーム支援の定義）

「同じ組織内（例：学校）または異なる組織間において、異なった専門性や役割を持つ者同士が子どもの問題状況について検討し、今後の援助のあり方について話し合うプロセス」（石隈1999）

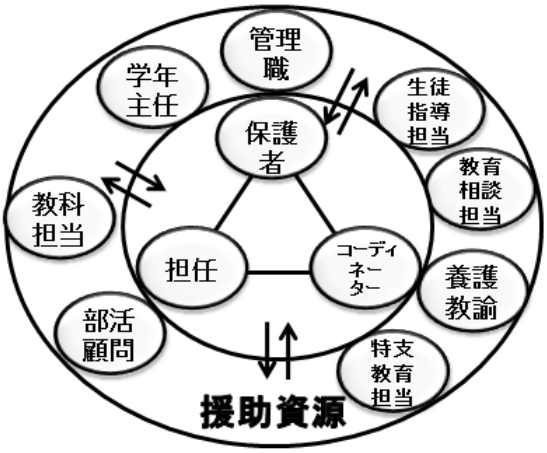
「問題を抱える個々の児童生徒について、校内の複数の教職員やスクールカウンセラーやソーシャルワーカーなどがチームを編成して児童生徒を指導・援助し、また家庭への支援も行い問題解決を行うもの」　（生徒指導提要2010）

4 チーム支援の3つの形態

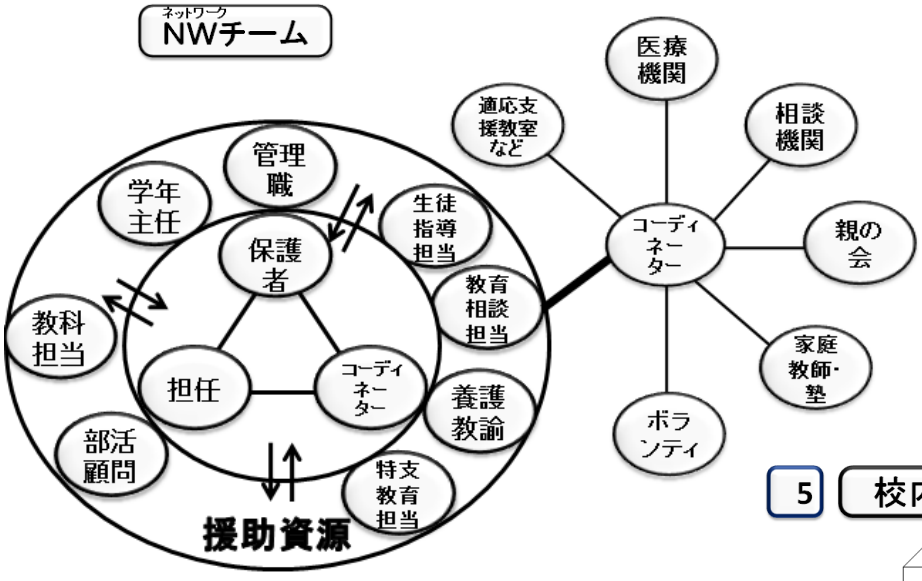
コアチーム



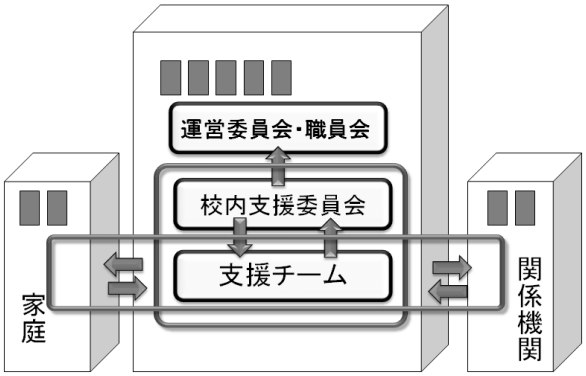
拡大チーム



NWチーム（ネットワーク）



5 校内連携から校外連携へ



6 何をもって「チーム支援」と呼ぶか

チーム
- コーディネーター担当者
- 支援 の プロセス
- 柔軟な役割関係

「援助チームは、仲良しグループでも、同じ考えを持つ同士の集まりでもない」「役割に基づいて、ある程度限られた時間、一緒に仕事をするチーム」　石隈(1999)

7 チーム支援におけるコーディネーターの役割

校内支援委員会 → チーム支援会

1. 支援会の招集
2. 支援会の進行
   （メンバーの持ち味を生かす）
3. 次回の支援会の予定の調整
4. チーム支援のプロセスの確認

5. 校内における連携・調整

8 支援委員会におけるアセスメント

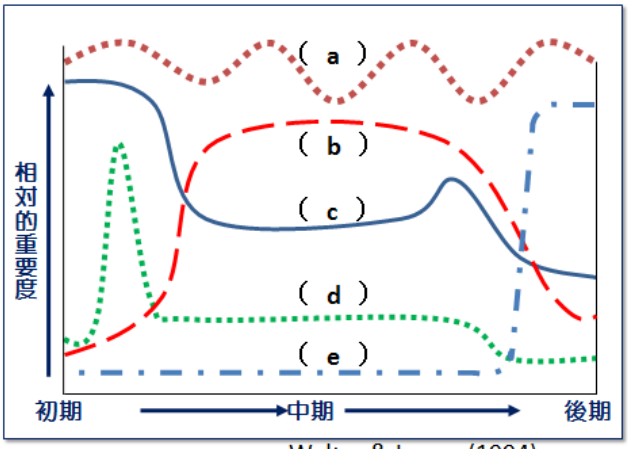
第　回 校内支援委員会 事例整理シート （　月　日実施）

		1年	2年	3年
情報共有で見守る事例	継続			
	新規			
支援が必要な事例	継続			
	新規			

9 チーム支援　の　プロセス

1. チーム支援の要請・チームの結成
2. アセスメントの実施
3. 支援方針・支援計画の作成
4. チーム支援の実践
5. チーム支援の評価
6. チーム支援の終結

ワーク3　援助サービスにおける同時的プロセスモデル



Walter & Lenox (1994)

Q：下の図の（a）～（e）に入るものとして適当なものを、次の①～⑤から選んでみましょう。

① アセスメント　② 終結
③ 援助的介入　④ 目標設定
⑤ 関係づくり

（a　　）（b　　）（c　　）
（d　　）（e　　）

大野（1997）

３．チーム支援をどう進めるか

ワーク4

中学１年女子のＡさんは、夏休みまでは無遅刻・無欠席で登校していました。ところが、クラスの隣の席の友だちにきつく言われたことがきっかけで休み始め、９月終わりから今（１１月初め）まで２カ月ほど欠席が続いています。母親は、「小学校６年のときにも欠席が１週間近く続いたことがあったが、そのときはすぐに登校し始めた」と言います。担任が家庭訪問をすると本人に会うことはできましたが、学校の話をすると黙りこむことがあるようです。先週は、２日間、保健室までの登校ができました。今のところ、午前中だけの登校にとどまっており、「教室に入るのはまだ少し怖い」と言っています。

（１）　各グループで、コーディネーター役を１名選んでください。

（２）　「Ａさん」についてチーム支援を行うとすると、この場にはどのような人を招集すればいいと思いますか。

（３）　「Ａさん」の状態についての理解を進めるために、どのようなことがわかればいいと思いますか。付箋１枚につき、１件の質問を書いてください。

10　チームをどう立ち上げるか

1. だれがチームを招集するのか
   （コーディネーターの役割）
2. どのような事例、どのようなタイミングで、チームは招集されるのか
3. だれが、そこに招集されるのか
   （見立ての必要性）

11　初回のチーム支援会の進め方

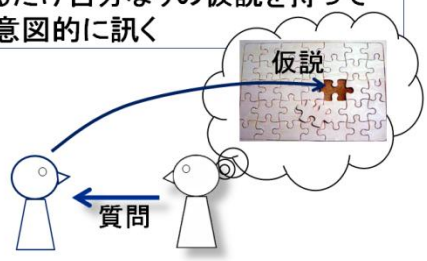
① （学級担任からの）事例についての報告
② 参加者からの質問
③ 「わかった」情報と「わからない」情報の整理
　（共通のワークシートや付箋等の活用）
④ 事例の背景についての仮説の検討
⑤ 次回チーム支援会までの
　当面の支援方針と役割分担
⑥ 次回チーム支援会の時間と場所の確認

記録を残して、次につなげることの重要性

12　事例への質問のポイント

- **「いつから」**そうなったのか
- そのとき**「何が」**あり、**「どのようで」**あったか
- **「いつ」**そうなるのか、**「いつ」**そうならないのか
- **「どこで」**そうなるのか、**「どこで」**そうならないのか
- **「だれ」**がそうなのか、**「だれ」**がそうでないのか
- **「だれ」**に対してそうなのか、**「だれ」**に対してそうでないのか
- **「何」**を**「どのように」**してきたか
- **「何」**が うまくいったか、**「何」**がうまくいかなかったか

事例について質問するときは
できるだけ自分なりの仮説を持って
意図的に訊く



13 児童生徒理解 の 5W1H

事例の枠組み

- い つ
- ど こ で
- だれが・を

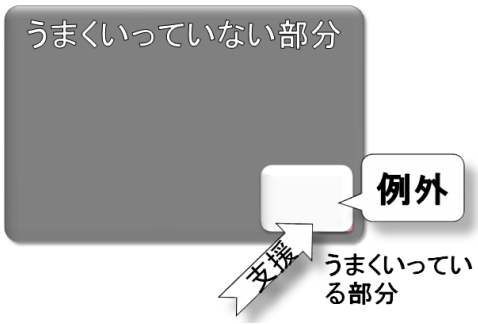
できごと

- 何が
- どうであるか

なぜ？

14 「例外」探しという発想

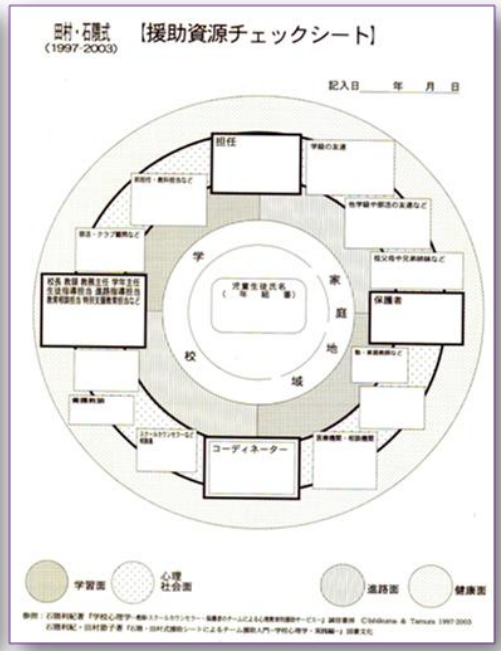
「援助資源」という視点



15 コミュニケーションツールとしてのワークシート

チーム支援ワークシート　　（ ）年（ ）組（ ）番　氏名（　　）　月　日

実態把握（情報収集・整理）		背景仮説	具体的な支援
生徒やその周囲についての情報	生徒について対応してきたこと		
現在の時点で、生徒についてわかっていること。	○うまくいったと思われること △工夫が必要と思われること ×うまくいなかったと思われること	生徒の言動や症状の背景にあると思われること。	支援の方針 支援の計画（だれが、いつまで、どこで、何を、どのようにするか）



４．チーム支援を進めていくために、これから何が必要か

ワーク5

〔引用・参考文献〕

石隈利紀（1999）『学校心理学』誠信書房

大野精一（1997）「学校教育相談―理論化の試み」　ほんの森出版

大野精一（1999）『学校教育相談の実践的体系について』広島大学学校教育学部附属教育実践総合センター『いじめ防止教育実践研究』第２巻、1-41p

石隈利紀・田村節子（2005）『チーム援助で子どもとのかかわりが変わる』ほんの森出版

佐藤一也（2007）『作戦会議を柱にしたチームでの協働』高知県高等学校教育研究会教育相談部会会報

今西一仁（2008）「生徒サポート部で日常的な校内連携とチーム支援」月刊学校教育相談１月号 ほんの森

文部科学省(2010)『生徒指導提要』